ENOG92 Meeting

上越における IT人材の取組みについて

地産地消クラウド構想

植木 和樹 ／ ORAJA・クラスメソッド株式会社

「学生のIT教育を企業のIT担当者が支援する」持続可能なITエコシステム

1. 上越地域の現状課題

地域企業の DX遅れ・採用難



地域企業による採用が進まない



優秀な学生が地元を離れ、流出が続いている

誘致企業の 地域接点不足



企業誘致を推進したものの、地域に還元できていない



個々の活動が地域で繋がっていない

人材基盤が細る・DX競争力の低下

2. 取り組みの全体像：エコシステム構築

① IT教育（コア活動）



- ✓ 実務担当者 講師
- ✓ 企業ニーズの反映
- ✓ アプリ共同開発



持続可能な ITエコシステム



② ノウハウの資産化

PC・ライセンス貸し出し
資料・知財の蓄積・改善

③ 宇宙×IT連携（ロールモデル）

デジタル・AI・宇宙
全国で活躍する人材育成

リスキリング講座も開催（社会人向け）

3. 各機関の役割と提供価値（お願いしたいこと）

自治体	会場提供・広報	誘致効果の可視化 人材定着
金融機関・商工会議所	企業参加呼びかけ 資金支援	取引先DX推進 生産性向上
高校・専門学校	授業連携	就職率向上 カリキュラム充実
企業（地元・誘致）	講義登壇 プロジェクト参画	採用母集団形成 案件拡大 地域とのコラボ

4. 出口戦略と持続的循環

STEP 1 教育（接点）
→ STEP 2 採用（合同会社説明会）
→ STEP 3 DX支援（会員企業が有償支援）
→ 地域内ビジネス循環

5. 今年度の着手計画

2026年6月	夏〜秋	年度内	次年度以降
事務局整備	もくもく会 各種勉強会	企業連携 講義開始	新規事業創出 Uターン受入

現場の人手も、ITを進める人も足りない

現場の課題

日々の業務を減らしたい

採用が難しい中、限られた人数で
現場を回す必要がある。

社内の課題

ITで改善する人が足りない

導入と運用を担う人も、
社内で教えられる人も少ない。

業務を改善する力を、地域でどう育てるか

IT体験から地元企業の採用までにギャップがある

ITに触れる

小中高生向けの体験

ゲーム開発したい

→

地元の実務を知る

企業の課題に触れる

→

地元で働く

ITエンジニアとして採用

地元企業の仕事を知り、
互いを知る機会が少ない。

地元企業が求めるITスキルを、地域で育てる

学生

地元の仕事と課題を知る

地元企業が抱える業務課題を知り、
現場で求められるITスキルを
身につける。

企業

情シス担当者を育てる

社内の指導負担を抑えながら、
他社の知見を取り入れ、
幅広いスキルを持つ担当者を育てる。

かみえちごxTech交流会が企業・学校・行政・金融機関・CATVをつなぐ

クラウドと生成AIを、地元企業はどう使うか

2010年以降

クラウド・SaaSの普及

脆弱性を突く攻撃や
情報漏洩が社会的な課題に。

2023年以降

生成AIへの関心

何に使うか、費用をどう負担するか、
どの情報を入力できるか。

「閉じた環境」で「信頼できる人」が管理するインフラを「低コスト」で使えないか

“ラストワンマイル”という言葉が好き

受益者に価値を届けるのは誰か？

クラウドが発達しても、PCとルーターは
自分で管理なんだよな

CATVの閉域網とデータセンターを活用できない？

構成案

地元企業
社内の業務端末

→

CATVの閉域網
企業と拠点を接続

→

地域のデータセンター
社内チャット・顧客管理・生成AI

IT人材
育成環境

外部との接点を極力減らしたい

VPNは機器のファームウェア更新不備が欠点となりやすい

地元の人材が運用を学び、ORAJA会員企業が支える

地元の学生・スキルアップ人材

運用の実務を経験する

監視アラートの確認や
バックアップの復元を演習する。

ORAJA会員企業

技術者が指導・レビューする

手順や対応結果を確認し、
作業範囲と権限を段階的に設計する。

運用の実務を通して、企業が求める技能を身につける

学生との接点を増やし、現場の課題を伝える

DX・AX

導入・運用の相談

採用

学生との実務での協働

育成

情シス担当者の研修

集まった課題を改善につなげる

例　問い合わせの引き継ぎ漏れ → 対応手順と記録方法を見直す

運用と育成を組み合わせ、利用費を抑える

サービスを使う企業

利用料・業務支援の対価

インフラの月額利用料
業務分析・社員研修の対価

育成に賛同する企業

人材育成への協賛

技術者の指導や、実務で学べる
環境の整備を支える。

企業からの対価と育成への協賛で、運用と学びを支える

NIIGATA AI Expo で聞いた話

昨今の攻撃は、高度なAIを用いた攻撃

→ 防御はAIでないと対抗できない

→ 数年で防御AIの性能もあがる

→ けど新潟の中小企業が導入するには投資対効果的に難しい

→ 国や地域で包括的に基盤を整備すべきでは

ネットワーク（L4）は電気・ガス水道と同じく
ファイアウォール（L7）も今後公共インフラになるのかもな

まとめ

“地産地消”クラウド がしたい

地元企業が使う

CATVの閉域網と
地域のデータセンター

→

地域で運用を学ぶ

学生・スキルアップ人材と
ORAJA会員企業

→

企業の課題に活かす

業務改善・採用・
情シス人材の育成

業務課題と運用の経験を、次のサービスと育成に活かす